

収益性の向上と消費者ニーズに対応した花き生産

花き研究室

令和6年度の主要な研究課題の概要

○「農業副産物を活用した高機能バイオ炭の製造・施用体系の確立～小ギク栽培における高機能バイオ炭施用の影響調査～」(R5～R9)

近年、脱炭素社会実現に向けた動きとして、農業分野ではバイオ炭による炭素貯留が注目されています。バイオ炭施用による土壌物理化学性改善や収量増加などの効果が報告されているため、小ギク栽培におけるバイオ炭施用の品質への影響調査や、小ギクへの適応・普及性を評価します。

○「小ギク経営向上のための物日需要に対する省力的栽培・出荷調整技術の開発」(R3～R6)

県内の小ギク作付面積は、高齢化等で減少しています。今後も需要期の出荷量を確保し、所得向上を図るためには機械導入による省力化・生産規模の拡大が必要です。そこで、機械化のための栽培体系確立や、一斉収穫に適する品種の選定、鮮度保持技術の確立を目指します。

○「グラジオラス県育成品種の効率的球根増殖・切り花生産省力化技術の開発」(R6～R8)

県内産地では県育成品種を積極導入していますが、球根生産量が減少傾向で産地需要を満たせていません。また、新品種「ひたち 12 号」等が育成され、早期増殖が求められています。そこで、県育成グラジオラス新品種の早期普及を図るため、球根の効率的な増殖や省力化に資する技術の確立します。



「常陸はなよめ」

令和5年度の主な成果

小ギク挿し芽前の4週間の穂冷蔵は採花期間を短縮させる効果が高い

小ギク挿し芽前の穂冷蔵は、採花期間を短縮させます。冷蔵期間が長いほど効果は高く、4週間の処理が優れます。7～8月作型の採花期間が長い品種では、開花揃いが改善されやすいです。

表1 穂冷蔵が開花および切り花形質に及ぼす影響(R5 7月作型)

品種名	試験区	発蕾日 (月/日)	採花日 (月/日)	採花 ¹⁾ 期間	節数
精ことひら	対照区	5/18	6/9	8	27.7
	4w穂冷蔵区	5/19	6/14	5	30.7
精はんな	対照区	6/6	7/5	16	39.8
	4w穂冷蔵区	6/8	7/1	10	37.2
精こまき	対照区	5/26	6/16	11	33.1
	4w穂冷蔵区	5/29	6/19	7	35.9

1) 採花本数が5%に達した日から95%に達した日数とした

グラジオラス促成栽培でのトンネル資材は有孔2列の品質向上効果が高い

グラジオラス促成栽培において、有孔2列トンネル資材利用により、慣行（無孔）と比較して到花日数がやや長くなりますが、切り花長等の品質が優れます。

表2 トンネル資材別のグラジオラス生育 (R5)

トンネル資材	到花日数 日	採花日 (月/日)	切り花長 cm	切り花重 g	小花数 花
無孔 ¹⁾	96	5/27	123	119	17.8
有孔2列 ²⁾	97	5/28	131	136	17.9
有孔4列 ³⁾	98	5/28	120	103	15.9

※供試品種「ソフィー」

1) キリヨケバーナル（厚さ0.075mm）

2) ユーラックカンキ2号（43mm孔2列、開孔率1.5%、厚さ0.05mm）

3) ユーラックカンキ4号（43mm孔4列、開孔率3.0%、厚さ0.075mm）

今後の方向

○地球温暖化や異常気象多発に対応した高品質・安定生産技術を開発します。

○機械導入による省力化や、出荷調整技術を活用した生産性向上技術を開発します。